

## 新庁舎建設基本計画策定委員会市民部会

### 第5回第1分科会 議事要旨

日時：2004年10月16日 10時00分～12時00分

場所：町田市森野分庁舎4階 第2会議室

出席委員：井上（浩）分科会長、井上（直）副分科会長、赤堀委員、五十嵐委員、伊佐委員、大島委員、中里委員、野口委員

傍聴者数：0名

主な議題：1．綾瀬市庁舎、座間市庁舎の見学会概要について分科会長から報告  
2．当日配付資料の説明  
3．前回議事要旨の確認  
4．前回要望資料について  
5．意見交換（空間イメージについて）  
6．次回の検討事項について

審議内容：

< 今回のまとめ >

- ・ 綾瀬市及び座間市庁舎への視察結果の報告の後、視察の経験もふまえて望ましい市庁舎の空間イメージについて、活発に議論を行い、第4回までの議論を深めた。
- ・ 以下のような基本的な考え方について意見が出されたほか、空間イメージに関する具体的な意見・要望が活発に提起された（内容は後掲）。
- ・ “市民との接点となる部分は（空間としても、気持ちとしても）間口を広くする”、という考え方を基本とすべき。
- ・ 変化に対応できる「可変性」「柔軟性」が重要で、かつ変化してもユニバーサルデザインが維持されなければならない。
- ・ ユニバーサルデザインの一原則である「誰もが美しいと感じる」空間づくりを目指すべきである。
- ・ 自然に逆らわず、自然を活かす工夫が必要。

< 次回への継続事項 >

- ・ 安全・安心（防災など）及びITに関する議論を中心に行う。
- ・ 空間イメージのまとめとして、これまでの議論をできるだけ詳しく取りまとめる。
- ・ 既存の会議室の利用状況（有料の会議室）について、可能な範囲で調査する。

#### 議事要旨

##### 1．綾瀬市庁舎、座間市庁舎の見学会概要について分科会長から報告

- ・ 綾瀬市庁舎は、市の核としての役割を期待して計画された。明るい吹抜け空間に市民向け窓口が設けられている。議会棟が別棟になっている。7階の市民展示ホールと屋上庭園は眺望もよく、快適な場所であったが、休日等の市民利用にセキュリティ上の課題があるとのことであった。1階の玄関前にバスターミナルがあり、駐車場が隣接している。
- ・ 座間市庁舎は、市民会館などとの複合施設。展望回廊があったが、空間的には課題があ

る。1階に吹抜けがあり、風をかざるなど、座間市の特色を印象づける工夫がみられる。平面計画上、階段が四隅にあり、利用に不便があるとの反省点を説明された。地下駐車場には、身障者用の駐車スペースが入口に一番近いところに設けてあり、2台分のスペースを確保していた。食堂は別棟になっており、会議室もあった。おそらく休日開放時のセキュリティ上の課題を解決する方法でもあったものと思われる。防災情報システムが整備され、情報収集と判断・指示が速やかにできる対応をとっている。

- ・ 両庁舎とも10年近く前の設計ということで、ユニバーサルデザイン/バリアフリーの議論が現在ほど盛んでなかった時期といえよう。町田では、もう少し進んだものを実現したいという希望と意欲が湧いた。

## 2. 当日配付資料の説明

- ・ 今回欠席の西川委員提出の資料について配布、分科会長から紹介された。

## 3. 前回議事要旨の確認

- ・ 議事要旨(案)に基づき報告。
- ・ 分科会長から内容について確認をとり、委員の了解を頂いた。

## 4. 前回要望資料について

- ・ 第1分科会の議論の進め方について、行程表を説明。

## 5. 意見交換(空間イメージについて)

- ・ 資料2.及び資料4.について説明。また、資料3.は討議の過程で説明。
- ・ 資料4.に関しては、これまでの議論を整理した“資料”として委員に確認・了解頂いた。同資料をたたき台としながら、前回に引き続き町田市庁舎の空間イメージについての意見交換を行った。
- ・ 以降は、意見交換の内容をテーマに応じて整理・記述したものである。なお、各意見の冒頭の「 」印は主として要望事項を、「・」印は意見・討議事項を示している。

### ユニバーサルデザインについて

ハートビル法などの基準は、いわば「点」と「点」であり、これらを結んで利用しやすくするための工夫が必要。法律も、視察した両庁舎の設計当時に比べて進んできているが、そうした点と点の関連性への配慮が重要である。

ユニバーサルデザインの考え方のひとつに、「誰もが美しいと感じる」というものがある。これは、色や素材のもつ美しさを活かす、という意味がこめられている。ここまで含めた空間づくりを行うべき。

### 変化への対応について

- ・ 座間市庁舎の執務空間にある廊下(市民対応のカウンターが並んでいる)はゆとりある幅であったが、これは通行のしやすさだけでなく、将来の執務空間の拡張余地として配慮したものであるとのことであった。

議会の委員会室やサイン表示なども、視察した庁舎では完成後の変更によって対応を迫られていた。こうした変化に対応できる「柔軟性」「可変性」が必要。変更があっても、ユニバーサルデザインは維持されなければならない。

#### 庁舎の規模について

新庁舎に入居する職員数は、施設規模の前提条件となる。市民感覚としては、現庁舎からの平行移動でなく、新庁舎移転を契機とした組織改革なども検討する必要があると考える。無駄なスペースを省き、利用効率を向上させる、という考え方にたつ必要がある。

- ・市としては、定数管理計画やオプティマなどの検討・計画を並行して進めており、これらは着実に実施していくことになる。

組織改革やスリム化といったテーマは必ず指摘されることである。新庁舎の具体化に向けて、これらに配慮した計画とすべきであることを、市民部会の成果としても明確に盛り込んでおくべきである。

#### 低層部における機能配置について

##### (基本的な考え方)

“市民との接点となる部分は(空間としても、気持ちとしても)間口を広くする”、という考え方を基本とすべき。

##### (低層部の配置)

- ・資料4における「低層部」は、新庁舎の規模からいって「1階」のみではなく、「2～3層」になるだろう。
- ・なお、「低層部」という際には地下も含めて考える。
- ・“1階だから便利”とは限らない。1階に様々な機能が配され、平面的に広がると、1階の奥に行くのにも歩くことになる。むしろ、入口の近くにエスカレーターがあれば、2階でも便利だと思う。1～2階程度であれば、低層で便利な形に配置が可能であろう。低層部の移動にはエスカレーターの設置が望ましい。1～3階程度を市民向けと考えると、エスカレーターによる対応が可能であろう。

#### 市長室及び議会関係機能について

##### (市長室)

- ・市長室は、市長が不在のことも多いと思われ、あまり使われないのであれば、低層部にあるのはもったいない。
- ・市長が不在であっても、「市民との近さ」という観点からは、より多く市民の目に接する位置にあってもよい。
- ・現在は市長室(応接セット含む)と市長公室(20名程度、多数の来客、庁議に対応)があるが、市長公室は手狭である。24時間空調対応が可能のため、他の会議(消防・防災関係など)でも使われている。
- ・市長室と市長公室を別々の階に設ける(執務のための部屋と応接のための部屋を分けるという意味)ことも考えられないか。

(議会関係)

- ・議場は、市民に開放できないのであれば、あえて低層部に設ける必要はないだろう。

その他市民との接点となる機能について

(レストラン)

レストランは不要ではないか。ただしちょっとした喫茶室・談話室は1階に必要。 駅から歩いてくると結構疲れるので、入口そばに休むことができるソファなどがあるとよい。喫茶・談話室があるとそうした機能もはたすことができる。

- ・レストランは、市民ホールにもあり、重複してしまうのではないか。  
レストランはあった方がよい。 いずれにせよ職員向けには必要であろう。現庁舎の食堂は、多くの職員が利用している。昼食時が終了しても、喫茶として利用可能。大学の学生食堂も、今では学生だけでなく、周辺の主婦にも人気があると聞く。周辺との重複に関しても、競争して質を高めてもらう、という考え方もある。価格が安く、さらに眺望の良いレストランがあると、市民にとってもよいだろう。
- ・なお、仮に11階程度の高さにあるレストランを考えると、おそらく新宿の小田急百貨店の飲食店街くらいの高さをイメージすると、想像しやすいのではないか。

(市民との協働スペース/会議室)

- ・会議室を設け、市民との協働スペースにも使う、などの考え方については、視察した庁舎のように、多くの会議室があってもあまり利用されていない状況を見ると、多くの会議室が本当に必要であるか、疑問を感じざるをえない。
- ・市民との関わりをどう考えるか、ということが重要になる。 NPO との打合せスペースや、レストランなどは、市庁舎に利用できる会議室があると使い勝手が良くなることは間違いのない。また、これからは市民が政策について市と一緒に議論していく場も求められるようになるだろう。
- ・市民ホールやフォーラムには貸会議室がある。こうした既存の会議室の利用状況やニーズも調べる必要がある。市で可能な範囲で状況を調べる。
- ・市民ホールの会議室に関し、利用する場合は1年前に予約しないといけない。そのくらいよく利用されていると思われる。  
視察した経験から、会議室フロアを中廊下式にすると、威圧感がある。 ガラス壁や腰壁とするなどの工夫が望ましい。「誰もが美しい」と感じる空間づくりにも結びつく。

(情報発信機能/ワンストップサービス)

町田市の魅力や特色を周知する情報発信・PR コーナーも必要だと思う。

第2分科会で議論されている「ワンストップサービス」的な考え方にたつと、「情報窓口」が必要であろう。

- ・市民があちこちに動くのではなく、ITを活用したサービス提供ができるのではないか。
- ・一方、現在でも出向いた課の職員が他の用事がある窓口に同行・案内してくれたり、電話して他の課に問合せをしてくれたりするので、そうした対応でもよい。

支所にはいろいろな窓口が集まっているので、そこに行けば用事が一度に済む。こうした対応を本庁でもできないか。

(物販機能等)

銀行や郵便局の ATM コーナー、ミニコンビニなども低層部にあるとよい。

町田の物産を展示販売するコーナーもあるとよい。駅の地下にもあるが、薄暗くあまり快適な空間ではない。明るい場所にあるのが望ましい。

ミニコンビニ、物産展示販売、喫茶室などが複合された物販コーナーがあると、市民にとっても魅力的な場所になるのではないか。

(キッズルーム等)

1階部分にキッズルームや授乳室は必要。現在ではスーパーマーケットにも設置されている。(現庁舎1階にも設置済みであるが。)

(防災拠点)

- ・防災拠点は、敷地規模からみて別棟ではなく、建物内となるだろう。
- ・現防災マニュアルにおいては、ボランティア等が災害時に本庁舎に集まることにはなっていない。また、本庁舎は避難場所でもない。座間市と異なり、町田市は消防本部機能は持っておらず(東京都にある)座間市と同様の機能が必ずしも必要なわけではない。
- ・本庁舎はあくまで指令を出す場所であり、そうした場所に一般の方々が出入りできてしまうことはかえって望ましくないとの考え方もできる。
- ・災害発生時にボランティアや応援部隊が集合する場所とするのであれば、相当のスペースが必要となり、本格的な防災センターが求められるはずだが、新庁舎の敷地からみて、それだけの機能を盛り込むことは困難ではないか。こうした機能は必ずしも本庁でなければならぬわけではなく、市として災害時の対応ができていることが重要。これについては、市民の側がどのように考えるか、にもよる。
- ・備蓄倉庫についても、同様の主旨から、本庁舎にどの程度のものが必要かは不明。むしろ、IT化が進んでもそこにのらないような資料がたくさんあるため、そうした資料を保管するための場所は、司令塔となる本庁舎に必要であろう。

(駐車場)

- ・仮定だが、2,000坪程度は駐車空間が必要になるだろう。そうなると、地上に平面で確保することは難しく、おそらく地下になると考えるのが現実的。
- ・公用車に関しては、本庁以外にも駐車場所の配置を検討する必要がある。

建物について

天井高さは、高くとるべき。平面だけでなく、高さ方向にもゆとりが必要。ただし光熱費が課題。

- ・夜間、駅から市民ホールのサインが良く見える。これを考えると、市庁舎の配置によって、

駅から見えることも考えられる。駅からの見え方も変わってくるだろう。

動線を平日と休日で明確化し、セキュリティに配慮すべき。

自然光を取り入れ、照明に関し省エネルギーとなるよう配慮する。

自然に逆らわず、自然を活かす工夫を取り入れるべき。これにより空調の負荷も軽減する。

吹抜けや議場などの天井に過度な飾りや照明を設ける必要はない。

- ・ 防犯カメラについては、プライバシーの観点から市民からの拒否反応も出ることがあったが、最近では理解もされるようになってきた。市庁舎においても採用される可能性があるだろう。

## 6. 次回の検討事項について

- ・ 次回は、安全・安心をテーマとすることになっており、防災の話も含めて議論する。また、ITについても議論したい。
- ・ 空間イメージのまとめに向け、これまでの議論の内容をできるだけ詳しくまとめて提示してほしい。

### 分科会で使用した資料

- ・ 第1分科会の検討の進め方
- ・ 資料1．庁舎の参考事例（追加資料）
- ・ 資料2．ハートビル法に基づく整備水準
- ・ 資料3．新市庁舎への入居組織等
- ・ 資料4．市庁舎への諸機能の配置イメージの整理
- ・ 第4回市民部会 議事要旨（案）

### 当日配布した資料

- ・ 『10・16に変更された、第5回分科会へ』（西川（新）委員作成）

以 上